

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------------|-------|-----------------|------|----|-------|--------|---------|------|---------|----------------------|------|-----------------|--|
| 科目区分 | 教養科目 | 授業科目名 | 平和学 | | | 科目コード | 24L010 | 担当者 | 山口 響 | | | 担当形態 | 単独 | |
| 対象学科・コース | 生活創造学科 ビジネス・医療秘書コース | 配当年次 | 2年次 | 開講学期 | 前期 | 単位数 | 1 | 必修・選択の別 | 選択 | 免許・資格要件 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 履修条件 | | | | | | | | | 教育職員免許法施行規則に定める科目区分等 | 科目区分 | | |
| 実務の経験を有する教員担当科目 | | | 実務の経験内容及び科目との関連 | | | | | | | | | | 科目に含まれることが必要な事項 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------------|--|
| 授業の主題 | 学校生活や、食べ物／子ども／医療・福祉／観光など本学の学生が学ぼうとしている身近なことを題材にしながら、平和とは何か、平和を脅かすものは何か、平和をどうやったら生み出すことができるかを考える。 | 課題等への対応 (フィードバックの方法等) | 授業の最後の10分で必ず「振り返りレポート」を記入・提出してもらい、次の時間の冒頭での「授業通信」の配布や口頭を通じて、学生らの疑問に答える。□ |
| 授業の方法 | 配布資料、パワーポイント、板書などを利用した講義形式を基本とする。 | アクティブ・ラーニングの実施方法 | ・ペアワーク、グループワークなどを実施することもある（受講人数による）。 ・各授業時に「振り返りレポート」を記入する。 |

| 回数 | 授業計画 | 事前・事後学修 | |
|-----|---------------------------------|--|-----------|
| 第1回 | はじめに——鶴鳴女学校生たちの原爆被害 | 「若い女性が被爆するということ」について的小レポートをまとめる（事後）。 | |
| 第2回 | 核実験が破壊する人びとの暮らし | 核兵器が悪影響を与えた地域についての事例を探し、小レポートをまとめる（事後）。 | |
| 第3回 | 誰が、どうして核兵器を必要としているのか？ なぜなくなるのか？ | 核兵器に関する小テストに答える（事後）。 | |
| 第4回 | 観光と平和——原爆後・戦後の長崎の観光 | 「平和を絡めた長崎観光」に関する小レポートを完成させる（事後）。 | |
| 第5回 | 食べ物と平和——飢える人びと | 食料問題の解決に関する小レポートをまとめる（事後）。 | |
| 第6回 | 食品公害と薬害——カネミ油症を中心に | カネミ油症被害者の体験についての指定文章を読んでおく（事前）。 | |
| 第7回 | 戦争のなかの子どもたち | 「戦争と子ども」をテーマとした指定文章を読んでおく（事前）。 | |
| 第8回 | 医療・福祉従事者と戦争 | 戦争に従事した医療・福祉従事者の体験についての指定文章を読んでおく（事前）。 これとは別に、講義全体に関連した最終レポートを課す。 | |
| | | 事前・事後学修時間 (分／授業1回) | 180分／授業1回 |

| | | | |
|---------------------|--|------------|---|
| 教科書 [書名／著者名／出版社] | 指定なし | 受講生へのメッセージ | 皆さんが職業人になってからやろうとしていることは、平和という基礎がないとできないことだし、逆に、人と人との間に平和を作り出す行為でもあります。この講義を通じて、自分と社会とがどうつながっているかを深くとらえていきましょう。 |
| 参考書 [書名／著者名／出版社] | 長崎原爆の戦後史をのこす会編『原爆後の75年——長崎の記憶と記録をたどる』、2021年。その他は毎回ごとに指定する。 | | |

